

「第2回日韓河川生態セミナー」報告



研究第三部 主任研究員 丸田 英二

1. はじめに

「第2回日韓河川生態セミナー及び周辺地域の現地調査」に、2004年7月4日から7日までの4日間、大韓民国訪問のうえ出席し、韓国側の河川生態研究の実情、日韓の河川生態学術交流の進め方・把握、韓国側の河川生態研究・河川再生事業に係る情報収集・現場の状況把握、今後のリバーフロント整備センターと大韓民国河川生態研究グループ等との交流の進め方等について、セミナー及びフィールド・トリップ・ツアー等の参加をおこなった。

2. セミナー/Kyung-Hee University

第2回日韓河川生態と土木工学に関する合同セミナーとして発表された構成は以下のとおりである。

- ①生態学指標と目標（砂洲のマネジメント）
／名古屋大学 辻本哲郎 教授
- ②数値シミュレーション（植生を有する高水敷を持った複断面河道）
／Yonsei大学 Sung-Uk CHOI助教授・他
- ③同位体を用いた流域の総合的生態系評価
／京都大学 Ichiro TAYASU
- ④Cheongmi川における洪水攪乱が河畔植生に与える影響
／Inha大学 Kang-Hyun CHO
- ⑤吉野川における外来種の拡大に対する生態学的水理的要素について／徳島大学 鎌田磨人 助教授
- ⑥磯河川の高水敷の土環境に与える洪水流の効果
／名古屋大学 戸田祐嗣 講師
- ⑦階段状構造物の流下特性
／中央大学校 金 鎮洪 工学博士
- ⑧河川生態の評価のためのベントスのハビタット指標と栄養指標の総合化
／京都大学 竹門康弘 助教授
- ⑨PCR-DGGEとニューラルネットワークを用いた水生ベントスと無脊推動物コミュニティのパターン解析
／釜山国立大学 Tae-Soo Chon教授
- ⑩さざ波の物理環境のヒエラルキー解析
／東京大学 知花武佳 講師



写真—1 セミナーの様子

- ⑪河川環境に与える河川内骨材の浚渫のインパクト解析
／湖南大学 金教授
- ⑫Nアイソトープ比（河川有機体と有機物たまりの）—新しい河川生態系に与える人的インパクトの新しい指標について
／京都大学 高津博士
- ⑬ソウル市清溪川の水質、水生生物の現状及び将来有名な清溪川プロジェクトの水質及び生態系についての報告
／ソウル市公共環境・健康研究所 Kyung-Seok BAE博士

3. フィールド・トリップ・ツアー/漢江流域

漢江流域にある、湿地再生、Paldang Dam、チョンゲジョン、Bam-seom、KICT（韓国建設技術研究院）の実験施設等の現地調査をおこなった。

- ① 湿地再生/漢江 左支川
本エリア内には特別な施設物はなく、歩き廻れる路、小学生を対象とした環境教育としての案内板・鳥などを観察する観察帯が造られている。水源は、山と農業で使用した水（地下水主体）である。
本工事は3年計画で工事費は約200億ウォン。貯水池側は、水位維持を優先する操作を実施しており（ソウル市の都市用水確保）ヨシ原も良い状態を維持している。造成湿地はかなり狭く、また、公園的整備でかなりの部分が盛土でドライな状態である。



写真—2 現地状況



写真—3 説明風景

写真—4 集合写真

4. おわりに

最後に、本セミナー遂行にご尽力頂いた、主催者側のKICT（韓国建設技術研究院）Woo博士を中心とする韓国河川生態研究グループの皆様、日本側代表の応用生態工学会交流委員会（辻本哲郎 委員長）の皆様に対し深く感謝申し上げます。